

2021年度 第7回 三井のリハウス 東京都U-12サッカー 11ブロック前期リーグ

【リーグ戦の趣旨】

少年期における子供たちの健全なる心身の発達を願い、技術、戦術、マナー、
そしてサッカーのゲームを楽しみ、愛する心を育てる。

8人制の試合をすることにより、「判断」へのアプローチ場面を多くし、いろいろなポジションを
経験しながら個々の「技術」の質を高める。育成をめざし、多くの選手に試合経験を与えることとする。

- * 主催 公益財団法人 東京都サッカー協会 東京都少年サッカー連盟
- * 主管 東京都少年サッカー連盟
- * 協賛 三井不動産リアルティ株式会社

【11ブロックリーグ大会要項細則】

1、開催日

前期リーグ戦は4月11日～6月末までとし、後期リーグ戦は9月～12月末終了を目安とする。

2、会場

町田市・多摩市・稲城市それぞれとブロックリーグ参加チームの提供会場にて開催する。

3、参加資格

- a, 2021・東京都少年サッカー連盟大会要項「中央大会・ブロック大会共通事項」に準じる。
- b, 参加チームは大会実施年度に日本サッカー協会(以下本協会)第4種に加盟したチームであること。(準加盟チームを含む)
参加チームは、小学校6年生主体で構成された単一加盟チームに限られ、その加盟チームは年間を通じて継続的に活動していること。なお6年生がおらず5年生以下だけの選手編成も認めるが、健康・体格・体力・技能等を十分に考慮しチームの責任において出場させること。
- c, 所属選手はJFAの選手証を有し試合に持参すること。(顔写真のある個別もしくは一覧の、印字された選手証が必要)
※追加選手をJFAに登録申請して送金済であっても、webで選手証が発行されない限り選手登録出来ない(2020年度より)
- d, グラウンド提供から会場運営など、リーグ戦運営に協力できるチームであること。
- e, 本協会公認指導者資格D級以上を有する2名以上5名以下の指導者が引率(ベンチ入り)出来ることが必須であるが、指導者講習会が開催されていない今期に限り、最低1名の有資格者がいれば、残り4名以下は「指導者資格取得予定者」としてのベンチ入りを認める。「指導者資格取得予定者」は指導者資格取得講習会が再開された際には、受講を申込みことが前提。
3人目～5人目の内1名は指導者資格を有しないメディカルスタッフとしてベンチ入り可能。
- f, 複数チーム参加は6年生が20人以上登録されており、2チーム(A,Bチーム)ともに6年生だけで構成し、下級生の登録をすることはできない。ただし運営上においてブロックより要請された場合はその限りではない。
引率指導者は複数チームを兼務できない。ただし運営上ブロックより要請された場合は兼務できる。
複数チームの代表者はいずれにおいても兼務できる。
複数チームによる同一チーム内での組み換えは、リーグ戦が終了するまで出来ない。
- g, 移籍については2021年度連盟大会要項『移籍規定』に準じ、ブロック委員長の承認が必要で大会中に移籍した場合、再び同一大会に参加することは出来ない。今年度における移籍は2021年6月27日を期限とし、それ以降は認められない。

4、試合形式

- a, 試合は全て8人制で、9チーム以上にグループ分けして、各グループそれぞれ1回戦総当たりのリーグ戦で行う。
- b, 40分(20-5-20)の試合は土曜と日曜で最大2試合までとする。(土曜1試合・日曜1試合または土曜か日曜に2試合)
- c, 3連休の扱いは(1試合・0試合・2試合)または(2試合・0試合・1試合)の3試合は可、連続する2日間で3試合は不可。
- d, 熱中症対策などで試合時間を短く(15分ハーフ)することにより、土・日の2日間で3試合まで認めるが、1日で3試合は不可とする。どちらにおいても、延長戦やPK戦は行わない。
- e, 前期リーグ戦の結果は後期リーグ戦のグループ分けに反映させる。
- f, 後期リーグ戦の1部リーグの1位またはそれに準ずる成績でブロック委員長より推薦されたチームは、東京都2部昇格戦に出場できる。昇格戦は、次年度の学年(現5年生以下)が対戦する。
- g, 登録選手全員がベンチ入りできる。また全員が出場できるようにチームで配慮する。

5、新型コロナウイルス感染症対応のための、期間限定特別ルール 【11ブロックローカル規定】

- a, 感染症対応特別ルールが施行される期間は「8、競技会規定」より感染症対応特別ルールが優先される。
- b, 選手とベンチ入り指導者は**試合会場**(グラウンド及びベンチ)と**管理区域**(グラウンド外周)に入場できるが、その他のスタッフは試合会場には入場できない。試合会場と管理区域の区別はブロック役員や会場提供チームが設定し全体に案内する。
- c, 大会は無観客試合とし、**試合会場**に入れるのは登録用紙に記載された選手と、2名から最大5名の指導者のみとする。
- d, 熱中症対策や荷物の管理等で別途最大**3名(会場による)まで協力(手伝い)スタッフ**として**管理区域**への入場を認める。
協力スタッフは11ブロックで用意し**貸出す新たな「STAFF証」を常時首掛け**掲示していただけない。
(メディカル証の複製は不可、首掛けホルダー入り「STAFF証」は**試合終了後本部に返却**する)
協力スタッフの役割は選手や荷物の保護であり、**応援や撮影のためだけの入場は認められない**。
- e, 無観客＝観戦者無しなので、**先乗りしての試合観戦や試合後の居残り観戦は不可**とする。各チームはアップの時間に合わせ会場入り(早くとも試合の90分前)し、試合後は(運営や割当て審判員以外)速やかに駐車場から全員退去すること。
- f, 全選手及びベンチ入り指導者と管理区域へ入場できる協力スタッフ(大会施設内に留まる全ての来場者)は、11ブロック指定の『**健康チェックシート**』を記入し、自チームの最初の試合の30分前までにメンバー表などとともに本部運営に提出しなければならない。『**健康チェックシート**』は**運営担当が確認後は返却し個人管理**とする。
- g, 健康チェックシートには個人情報記載の上、保護者の署名と試合の**2週間前から試合当日までの起床時の体温・体調**と同居している人の健康状態を記載しなければならない。
- h, コロナ対策用登録用紙兼メンバー表の体温の欄には、**会場入りした時点で検温**された体温を記載すること。
そのために**チームは体温計(非接触の体表温度計でも可)を持参**し、全選手とベンチ入り及び協力スタッフが会場入りした際に自チームにて検温し、その数値を「登録用紙兼メンバー表」の所定欄に記載しなければならない。
体温計を持参しなかったチームは、本部にて非接触型体表温度計の借用もしくは本部にて検温することが出来る。
(本部には11ブロックで用意した非接触型体表温度計が用意される。使用後・返却時には消毒する)
- i, 会場入り時点での体温が**37.5℃以上**の者は選手・スタッフとも出場出来ず速やかに隔離措置されなければならない。非接触式体表温度計で37.0℃以上の結果が出た者は、正規の接触式体温計で再検温し、接触式体温計の結果を優先する。
健康チェックシートで過去2週間以内に37.5℃以上の高温が続いていた者も会場入りさせてはならない。
(医療機関にて感染症ではないと証明された場合は除く)
- j, 健康チェックシートは確認後返却するが**個人情報が記載されているので、各個人に返却するまでは登録した管理責任者が責任をもって保管**しなければならない。また後日チーム内で感染やその疑いのある者が発生した場合、ブロック委員長は該当するチームの管理責任者を通して健康チェックシートの1部もしくは全部の提出を求めることができる。
この場合の個人情報は11ブロックもしくは提出先の保健所か東京都少年連盟が責任をもって保管する。
- k, 感染防止のため、結果報告書や審判報告書やその他報告書に記載するための『**筆記具**』を、運営担当者と各チームの代表者(結果報告書に署名する人)及び審判員は**必ず筆記具を持参して「使い回し」をできるだけ避ける**。
同様に空気入れや空気圧計などは基本的に**持参しただけが使用する**のが望ましい。体温計も同様。但し、速やかな大会運営のために上記を他の者が利用しても良いが、使用後は必ず**消毒**してから返却する。
- l, **会場入りの際から全ての来場者は常時マスク着用を必須とする。ベンチでの指導者も常時マスク着用とする。**
熱中症対策及びマスクを個人管理とする(チームで集めない)ため、ベンチ要員を含む選手は用具チェック時から試合に至るまでマスクを外す。審判員は用具チェックまでマスク着用で、競技のフィールドに入る際にマスクを外す。
マスクを個人管理するために選手や審判は、マスクケースや荷物入れ(リュック等)をベンチまで持参しても良い。
- m, 石鹸と消毒液をチームで持参し、会場への出入りの際は全員が手洗い・消毒を行い、常に他者との距離を保つ。
- n, 来場時や撤収時に整列しての本部挨拶は行わない。試合の際の開始や終了の挨拶は相手チームとの距離を**2m以上取って**整列(左右の間は1m以上)し、主審の笛の合図で一例のみ行い、**声掛け・握手・ハグ・ハイタッチ**は禁止する。
同様に円陣も組んではならない。また、ベンチ指導者は大声を出しての指示や選手に触れることを極力控える。
また、ベンチから離れて指導者同士挨拶することも無しとする。審判員の大声での『プレーオン』も無しとする。
- o, 熱中症対策は従来通りWBGT計の指数を目安に対応する。新型コロナウイルス感染症対応と相反する場面が出た場合は、より生命への危険度の高い**熱中症対策を優先**とする。
例) ベンチでは密を避けるよりテントの日陰に入ることが優先。マスク着用のせいで体調不良を起こしそうな選手やスタッフは競技場から離れて涼しい場所で回復に専念する。マスク着用は必須だが、アップや試合の際に選手はマスクを外して熱中症に備える。審判も競技のフィールドに入ったらマスクを外す。
- p, 試合中のテクニカルエリア(ベンチを含む)からの撮影は、静止画も動画も不可。試合会場外(管理区域内)では、ゴール裏やベンチ裏など試合に影響する場所からは不可で、本部が認めたその他の場所からの撮影は可とする。

6、競技会規定

①、競技会規則

- a, 日本協会2020/2021競技規則を基本とする最新のルールを適用する。
- b, 「8人制サッカー競技規則」の最新版に準じる。但し「東京都少年連盟大会要項」および「本大会要項細則」が優先する。

②、競技のフィールド

- a フィールドの表面は天然芝、人工芝が望ましいが、クレーでも可（ライン表示はマーカーの使用可）
- b フィールドの長さ(タッチライン)は68m、幅(ゴールライン)は50mを基本とし、照度が十分に確保されていること。
交代ゾーンとしてベンチ側タッチライン中央から両側に3mのマーク(タッチラインから5cm離して30cmの線)を設ける。
- c ペナルティ-エリア等・・・ペナルティ-エリア12m、ゴールライン～ペナルティ-マ-ク8m、ゴールエリア4m、
ペナルティ-アークの半径7m、センターサークルの半径7m、コーナーアーク1m。
- d テクニカルエリアは設置しない。戦術指示はその都度ベンチのただ1名の指導者のみが行える。
- e ハーフタイム時のフィールドでは、次の試合のチームの練習のための利用を認める。

③、ボール

- a 両チームは、各1個ずつ0.8気圧(800hpa)にした4号公認検定球を、当該試合開始10分前の用具チェック時まで本部運営に持ち寄る。
- b 主審は、0.8気圧を基本として、そのボールにおいて適切な値とする。(主審判断)

④、試合形式

- a, 試合は全てリーグ戦とし、リーグ戦の順位は次シーズンのグループ分けに反映される。
- b, リーグ戦における順位の決定方法
勝利3点、引分1点、敗戦0点の勝点により、勝点の多い順に決定する。なお勝点の合計が同一の場合は以下の項目に従い順位を決定する。
 - ① 全試合の得失点差(総得点-総失点)
 - ② 全試合の総得点
 - ③ 当該チーム同士の対戦成績(勝敗)
 - ④ ①~③の全項目において2チームもしくは3チームが同一の場合は、抽選により順位を決める。
- c, 競技時間は40分とするが、荒天等により大会日程が不足した場合、30分で行う事もある。
インターバルは5分、アディショナルタイム表示はしない。
- d, 飲水タイム(1分間を超えてはならない)やクーリングブレイク(90秒間から3分間内)を設けた場合にはアディショナルタイムとして扱う。

⑥、競技者 **必ずブロック委員長の承認を受け、承認印が押印されたメンバー表に記載されていること。**

- a, 大会開催前に登録用紙兼メンバー表に学年・氏名・選手証番号を記載し、電子選手証一覧を添えてブロック委員長に提出し、確認及び承認しpdfにて返送された登録用紙に記載の選手(登録人数に制限無し)だけがベンチ入り含め試合に参加できる。
試合は8人の競技者(内1人はゴールキーパー)で行う。ベンチ入り含めチームの登録人数に制限はない。
- b, **選手証のない選手は登録・申請できない。**
追加登録申請中で支払い証明があっても、選手証が発行されるまで登録できない。(2020年度から)
- c, フィールドプレーヤー(FP)は交代ゾーンから自由な交代とする。ゴールキーパー(GK)の交代は主審に通知して試合の停止中に行う。交代で退くGKは一番近いタッチラインかゴールラインから出なければならない。交代で入場するGKは交代ゾーンから入らなければならない。
- d, 一方のチームが8人に満たない場合は試合を開始しない。試合が開催出来なかった場合、8人に満たないチームの放棄試合として不戦敗扱いとする。不戦勝は得点が3、勝点3となり、不戦敗は得点0、勝点マイナス1となる。
- e, 試合進行中および終了時、フィールド上に6人未満の場合試合は不成立(6人未満のチームの放棄試合)となる。なお、主審の許可を得て、用具を直すまたは負傷の処置で一時的に6人未満の場合はその限りではない。本項は、早期復帰することが条件となる。復帰の見通しがたない場合は主審の判断で競技を終結させる。放棄試合は放棄したチームの不戦敗となり、⑥-dと同様の得点・勝点とする。
- f, 競技者が退場を命じられた場合、その競技者のチームは交代要員の中から競技者を補充する。主審は補充が完了するまで競技を再開しない。交代要員はユニフォームと異なる色(ビブス等)を着用する。

- g, 試合に出場(ベンチ入りも)出来る競技者は、承認印入りの登録用紙兼メンバー表登録者で、用具チェックを受けた者だけとする。出場停止や用具不備、応援のためだけでベンチ入りすることは出来ない。
- h, 退場処分(1試合の中での警告2枚を含む)及び累積警告2枚となった選手は、次の試合には自動的にベンチ入り含めて出場できない。内容によっては規律委員会で追加処分を与える場合がある。
- l, 選手は自チームの最初の試合の30分前には選手証を提出し、試合の都度10分前には氏名と用具を、それぞれ運営本部や審判のチェックを受けなければならない。(時間厳守)
後から参加する選手がいない場合は2試合目は選手証の提出は不要でメンバー表のみで良い。
- j, 選手は必ず傷害保険(スポーツ安全傷害保険)に加入していること。

⑦、競技者の用具(ユニフォーム) **規定への抵触の有無等の確認がある場合は大会前に役員へ照会する。**

- a, **原則として日本サッカー協会「ユニフォーム規定」に則る。**
※チーム名やチームを示すエンブレムをシャツの前面に表示する(背面は任意)。
- b, 選手番号は規定(背面:縦25cm-35cm、前面:縦10cm-15cm)サイズを適宜縮小することができる。
- c, 番号表示はシャツの背面及び前面に必須とする。ショーツには表示を推奨する。
- d, ユニフォームのメーカーロゴの違い、モデルチェンジによる微妙なデザイン変化、ソックスのライン数など購入時期の違いでの微妙な色の違いなどの細部には言及しない。
- e, 試合には必ずF Pの正副とG Kの正副を持参し、用具チェック前に対戦相手と相談の上着用するユニフォームを決める。
相談が纏まらなかった場合は審判または本部によるコイントスで正副を決める。
- f, **その試合でゴールキーパー(G K)が途中でフィールドプレーヤー(FP)に代わることが決まっている場合、GK時にFP用のショーツとソックスを着用していても良い。但し最初からGK用のショーツとソックスを持参しないことは不可とする。**
- g, ゴールキーパーの予期せぬ事態(ケガ・退場等で戦術的理由ではなく、控えのGKもいない場合)でのフィールドプレーヤーとの交代の際は、他のプレーヤーと区別する為、試合で使用していない正副いずれかのシャツで本人の番号であれば着用可能だがそれが難しい場合、番号無しの安全なジャージ・Tシャツ等を着用し試合を続けることができる。
- h, 2人のゴールキーパーユニフォームのH&Aは同じデザインが基本だが、メーカーのモデルチェンジなどでの多少の違いは問わない。また、3人目からのG Kのユニフォームは前の2人と異なるデザイン・色彩でも良いが、シャツ・ショーツ・ソックスはH&Aを揃え且つF Pと区別できる色とし、本人固有の番号が表示されていなければならない。
- l, 選手番号は試合の都度その選手固有のものとし、試合ごとに変更する事ができる。(11ブロック ローカル規定)

⑧、引率指導者 2021・東京都少年連盟大会要項「参加資格について」に準じる。

- a, **指導者資格D級以上を有する2名以上5名以下の指導者が引率(ベンチ入り)出来ることが必須条件ではあるが、今期に限り最低1名の有資格者と、4名以下の指導者講習会受講希望の「指導者資格取得予定者」がベンチ入りする事を認める。**
3人~5人目の内1名は指導者資格を有しないメディカルスタッフとしてベンチ入り可能。
- b, ベンチ入り指導者は試合の都度の登録用紙兼メンバー表に、氏名・指導者証番号・**責任順位**を記載するが、**指導者資格取得予定者は指導者証番号の代わりに『JFA ID』を記載する。JFA IDの取得は必須とする。**
- c, 登録用紙兼メンバー表の指導者の氏名の左の欄には、その試合のベンチ入り**全指導者の責任上位順に①②③④⑤を記載する。**
メディカルスタッフがいる場合、その氏名の左の欄には「○」のみで良い。
また、主審が判別しやすいように、ベンチの一番センター寄りには責任上位①位のスタッフが座る。
- d, ベンチ入り指導者は、指導者証を印字して試合の都度透明な首掛け式カードケースに入れて、当日の自チーム最初の試合30分前までに、必要事項が記載された登録用紙兼メンバー表と選手証と一緒に本部運営担当に提出してチェックを受けなければならない。**指導者資格取得予定者は11ブロックが用意する指導者証にJFA IDを記載して提出する。**
- e, **試合開始から終了まで、登録用紙兼メンバー表に記載され、指導者証を首掛け式カードケースで掲示した2名以上5人以下のチーム指導者がベンチにいないとならず、その内最低1名はD級以上の指導者資格証を掲示した者でなければならない。**
例外として負傷者対応や前後の試合の審判対応などでの退席の間、ベンチに指導資格者が不在になる事は認められる。
- f, 後から参加する指導者がいない場合は2試合目は指導者証の提出は不要でメンバー表のみで良い。
- g, 試合中の戦術指示は、その都度ただ1名の指導者が立ち続けて行うことはできるが、テクニカルエリアを設けないので移動は出来ず、その場で指示を行わなければならない。
- h, 試合開始から終了まで、メディカルスタッフは首掛け式カードケースに入ったメディカル証を掲示していなければならない。
- l, 指導者資格保持者は指導者証を掲示してベンチ入りし、メディカルスタッフとしてベンチ入りはしない。
- j, メディカルスタッフは戦術的指示はできない。**指示が発覚した場合は警告や退場の対象となる。**
- k, 警告2枚や退場となる反則を犯したメディカルスタッフは、他にそのチームで対応ができる医療担当がおらず、競技者に治療が必要な場合、試合に留まることが出来る。

- l, ベンチ入り指導者は、試合開始10分前の用具チェックまでに登録用紙兼メンバー表の参加選手(先発及びベンチ控え選手)の所定欄に「○」を記して、累積のある選手の累積欄には累積数を記載して本部運営に提出する。
- m, 当日の試合で新たに懲戒を受けた選手の「懲戒欄」に、試合後『✓』を入れて本部に提出する。
- n, ベンチスタッフの不正行為の発覚で**審判がスタッフ個人を特定できなかった場合は**、登録用紙兼メンバー表に記載された『責任順位番号』の最上位のスタッフに警告もしくは退場が命じられる。
- o, ベンチスタッフの代表者は試合終了後主審が記載した「結果報告書」の内容(得点、懲戒の有無)を確認し、記載内容に間違いが無かったら所定の欄に署名する。

⑨、審判 **競技規則の変更点を確認し、新ルールを理解して実践できる審判員であること。**

- a, 試合は、1人の主審と1人の補助審判(必須)で運営される。
- b, チームに割り当てられる審判任務への対応として、有資格で経験のある審判員をチームに帯同させなければならない。
- c, 帯同審判員は本大会に参加している他チームと掛け持ちで帯同審判員となることは不可とする。
- d, 審判員は必要に応じ審判を行う前に審判資格証(アプリ画面可)を本部運営に提示し確認を受ける。
- e, 審判員は「専用に販売されている審判服」の着用を必須とする(黒ハーフパンツ等ではNG)。
ベンチ入り指導者が前後の試合で審判員となる場合、ベンチにいる際は審判服を着替えるか上着を着用する。
- f, 審判員はワッペン・笛・トスコイン・時計・懲戒カード・グリーンカード・記録用紙&ペンを揃えて審判を行う。
- g, 審判員は割り当てられた試合の10分前の用具チェック時に合わせて指定の場所に集合し、メンバー表を基に両チームの参加選手の選手番号や氏名を確認し用具のチェックを行う。
自チームの試合の次試合に審判任務を割り当てられ、その審判員が自チームの試合のベンチ入り指導者2名に含まれる場合、この用具チェック時にベンチ入り1名になる事は可とする。**審判員が唯一の指導者資格者でベンチが資格者不在でも可。**
- h, 主審は担当試合の終了後、速やかにコート本部と記録を整合の上「結果報告書」に得点と懲戒の有無を記載し署名する。
両チーム代表者は結果報告書の内容に同意したらそれぞれの署名欄に署名する。
- i, 主審は「結果報告書」に記載署名した後に「審判報告書」を作成し運営に提出する。この時の審判員が次試合のベンチ入り指導者2名の内の1名の場合、報告書作成が済むまで次試合のベンチ指導者が**資格保持者ではない1名でも可**とする。
- j, 競技者に退場を命じてチームが交代要員から競技者を補充している間、主審は試合を再開させない。
- k, メディカルスタッフのコーチングを確認(補助審判からの報告も含む)した場合、主審はその**メディカルスタッフに警告する繰り返す場合はメディカルスタッフに退場を命ずることが出来るが**、警告2枚や退場となる反則を犯したメディカルスタッフは、他にそのチームで対応ができる医療担当がおらず、**競技者に必要と判断されたら試合には留まることが出来る。**
- l, ベンチ入りスタッフの不正行為に対してイエローカードやレッドカードを示すことが出来るが、不正を働いた者が特定できない場合は、登録表兼メンバー表の指導者名の横に記載されている責任順位番号の最上位の指導者に、警告や退場を示すことになるため、主審は前以て**ベンチ入りスタッフの最上位が誰か**を確認しておく。

⑩、大会前の準備

- a, 大会前の定められた期日までに『登録用紙兼メンバー表』に、所定のチーム情報と大会参加の全登録選手及び選手証番号を記載し、登録選手全員分の顔写真添付の『web選手証一覧』と共に11ブロック委員長にメール添付にて申請する。
- b, 委員長から確認の☑マークと承認印を押印し添付返送されたpdfの登録用紙兼メンバー表を試合の都度印刷してメンバー表として使用すること。申請の際複数エントリーチームは、それぞれのチームに兼任しない**1人以上の有資格指導者**を予め記載し同時に承認を受ける。

⑪、試合前～試合後 30分前と10分前は時間厳守のこと

- a, チームの最初の試合開始30分前までに、承認印押印でブロック委員長よりpdfで返送された登録用紙兼メンバー表の指導者の部分に、当日ベンチ入り指導者の指導者証番号(又はJFA ID)・氏名・資格級と、氏名左の欄に責任能力上位の順に番号①②③④⑤(メディカルスタッフは「○」のみで良い)を記載し、当日不参加の選手名を横線で消して、webから印字した選手証(電子選手証もしくは電子選手証一覧、顔写真必須)と**ベンチ入りの指導者全員の指導者資格証や11ブロック専用のJFA ID記載の指導者証を、首掛け式の透明カードケースに入れて提出し確認を受ける。**
メディカルスタッフがいる場合はメディカル証も提出する。
- b 試合開始10分前(必須)までに両チームが0.8気圧(800hpa)の試合球1個ずつを持参し、参加選手全員が本部運営の指示する場所(主に本部横)に集合して、ポール・選手氏名・背番号・用具のチェックを受ける。
- c, 競技者は用具チェック後はその場から離れることは出来ない。離れた場合再度用具チェックを行う。
- d, 試合終了後両チームの代表者は、主審が記載した結果報告書に署名する。チームの当日全試合終了後はその日の登録用紙兼メンバー表は本部運営が回収する。

- ⑫、運営担当 ベンチ入り指導者の氏名・級・責任順位の確認 **責任順位最上位は主審に伝える。**
- a, 運営は2チーム1名ずつで行う。運営担当は空気圧計と空気入れを持参し審判のチェックを補佐する。
 - b, 運営担当は気温の高い日にはWBGT計を持参し会場の所定の位置に設置したうえで、KO時とHT時の数値を結果報告書の所定欄に記載し、危険な数値になったら審判と本部に伝える。
 - c, 対戦表運営欄で、第1試合の左側に記載されていたチームの運営担当者は、当日そのコートで行われる全試合分の結果報告書と審判報告書及び懲戒台帳とその他報告書を持参する。
 - d, 運営担当者は試合中ベンチ指導者の不正行為を発見し個人を特定できたら、補助審判を通して主審に伝えなければならない。個人が特定できなかった場合ベンチ内の責任順位最上位者が懲戒を受けることになるので、登録用紙兼メンバー表に記載の責任順位を主審に伝える。
 - e, 試合中審判や運営本部で判断できない事由が生じた場合は、その場にいるブロック役員の判断を仰ぐか、ブロック委員長に連絡を取り相談する。役員不在や委員長と連絡が取れない場合は、予定通り試合を続けるが「ブロック委員長預かり試合」とするので結果報告書に両チームの署名を求めない。後日判断が出たら、委員長が両チームから直接署名を受領する。
 - f, 対戦表運営欄で最終試合右側の運営担当は、当日の試合を終了した全チームの登録用紙兼メンバー表を回収し、グループ幹事及び競技部などへの報告業務を行う。
 - g, 報告内容は当日全ての試合の「結果報告書」と、懲戒のあった試合の「審判報告書」及び記載があった場合の「重要事項報告書」に懲戒チームのメンバー表。また、記載のあった場合の「その他報告書」をpdfもしくは鮮明な写メ(必ず鮮明)で、幹事チームと結果報告書の最上部に記載のメールアドレス宛てに試合の当日速やかに配信する。
 - h, 懲戒のない「登録用紙兼メンバー表」と「審判報告書」は後日競技部へ提出するまで保管しておく。
懲戒のない「登録用紙兼メンバー表」と「審判報告書」は、求められた時以外は配信は不要。
 - i, 運営担当者が試合中メディカルスタッフの戦術指示を確認した場合、速やかに補助審判を通して主審に伝える。
同様にベンチ指導者の、その都度1人のみの戦術指示が守られていなかったり、ベンチより前に進んでいるなど不正行為を発見したら補助審判に伝える。
 - j, 運営担当者は、主審が試合終了後に得点と懲戒の有無を記載し署名した結果報告書の内容を両チームの代表者と共に確認し、間違いが無ければチーム署名欄に両代表者の署名をもらう。
 - k, 運営担当者もしくはチーム関係者は誰でも、観客・指導者・審判員等の行き過ぎた言動を「その他報告書」に記載して委員長もしくはブロック役員に手渡しまたは競技部に配信して報告することが出来る。「その他報告書」には署名は不要で記載の内容は「記載例」を参照とする。

⑬、警告・懲罰および再試合など

- a, ブロック大会期間中に累積で警告を2回受けた**選手やスタッフ**は、次の1試合は自動的に出場停止となる。
ブロック大会(前後期ある場合は両方とも)の全日程終了時点で、累積警告は消滅するものとする。
- b, リーグ戦において退場を命じられた**選手やスタッフ**は、その試合の以降の時間帯と次の1試合は自動的に出場出来ないが、内容によっては東京都少年連盟の規律フェアプレー委員会へ報告し、それ以上の追加懲罰が与えられる場合がある。
- c, 競技者が退場を命じられた場合、試合が再開する前にその競技者のチームは、交代要員の中から競技者を補充しなければならない。
- d, 試合が一方または両方のチームの責任なき事由(天災・悪天候・高気温・施設側または大会運営事由など)により開催不能または途中で終結となった場合は「再試合」とする。再試合の日時・会場・審判員・出場選手は新たに設定できる。
- e, 大会本部および当該チーム合意のもと、やむを得ない事情により再試合が出来ない場合は、速やかに競技部とブロック委員長に報告し、委員長は各役員を招集して委員長主導のもとで協議し、その後の処置を決定する。
- f, 試合が一方あるいは両方のチームの責任における事由(集合場所への遅刻、選手証や指導者証の不携帯、人数不足、差別的言動、暴力、破壊行為、公文書偽造、会場ルール違反など)により主審や本部役員によって開催不能または中止と判断された場合は下記の対応とする。

A.一方のチーム責任による、開催不能もしくは中止の場合

- ・そのチームの放棄試合として、不戦敗扱いとする。
- ・不戦勝は得点3、勝点3となり、不戦敗は得点0、勝点マイナス1となる。

B.両方のチーム責任による、開催不能や中止の場合

- ・無効試合として原則『再試合』とする。
- ・再試合の日時、試合会場、審判員、メンバー登録などは新たに設定する事が出来る。

但し、大会競技会本部及び当該チーム合意のもと、やむを得ない事情により再試合が不可能な場合は「引き分け」とし、両チームとも得点0、失点0、勝点0とする。

なお、A,Bにおいて内容によっては懲罰が与えられる。また重大事由の場合はブロック委員長から東京都少年連盟に報告され少年連盟規律フェアプレー委員会によって懲罰が決定される。

- g, 試合会場運営本部で判断が出来ない事象のまま終了した「ブロック委員長預かり試合」は、後日委員長主導のブロック役員会や東京都少年連盟との相談の上判断して両チームへ伝えた了承を求める。
- h, サッカーに対し敬意の無い行為(過激な応援・ヤジ・審判へのクレーム等々)を行ったチーム(選手・コーチ・応援含む) や、会場ルールを守らないチーム(選手・コーチ・保護者・その他のチーム関係来場者)などがあった場合、それらは「結果報告書」「審判報告書」「その他報告書」などにより委員長はじめブロック役員に報告され、基本的にはブロック委員長からの注意喚起などで対処するが、悪質な場合は東京都少年連盟に報告され懲罰の判断を仰ぐこととする。
- i, 本協会諸規程および本記載事項にない問題事例に関しては、東京都少年連盟へ報告して判断を促す。

【参考資料】

- サッカー競技規則 https://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/laws_of_the_game_202021.pdf
- 8人制サッカー競技規則 <https://www.jfa.jp/documents/pdf/eight/rules.pdf>
- 熱中症ガイドライン https://www.jfa.jp/documents/pdf/other/heatstroke_guideline.pdf